

応用生物科学部平成 19 年度前学期学生による授業評価の分析結果

平成 19 年 10 月 15 日
自己点検評価委員会
委員長 柵木利昭

応用生物科学部自己点検評価委員会では、学部教育の更なる改善のため学生による授業評価を実施しました。その評価の分析結果を報告いたします。

今後、これらの評価をもとに、教員の授業内容の改善活動につなげ、アンケート内容や回答方法の見なおし、教育カリキュラムを充実し、教職員による授業改善活動を継続的に行っていく所存です。分析結果をお読みいただき、ご意見・ご要望がありましたら、学部までお寄せくだされば幸いです。

分析結果の概要

1. 回収率について

学部全体で 172 科目について対象学生 900 名中 696 名がアンケートに回答し、回収率は 77.3%であった。履修科目のほとんど無い食品生命過程と生産環境課程の 4 年生および獣医学科を除く農学部 4 年生（過年度生）の合計 190 名を除けば、88.0%の回収率であった(表 - 1)。これらの数字は 18 年度前学期の 91.8%よりやや減少したが、17 年度前学期の 82.3%の回収率に比べ 5 ポイント以上高い。今年度も 18 年度に引き続き講義最終日等の時間中にアンケートを配布し、その場で回収するなど回収方法を改善した結果、16 年度の学生自身がポストに投函する方法(16 年度後学期の回収率 32%)に比べ、高い回収率となったと考えられる。しかしながら、夏季休暇中開講の一部集中講義（12 科目）等が調査から漏れてしまった。学務係や教学委員会と連携を保つなどより確実な調査方法をさらに検討していきたい。

表-1 授業評価アンケートの回収率(平成19年度前学期)

	対象学生数	回収枚数	回収率	
	1年生	83	82	98.8%
食品生命	2年生	84	74	88.1%
科学課程	3年生(食品科学)	50	46	92.0%
	3年生(分子生命)	43	24	55.8%
	1年生	86	80	93.0%
	2年生	83	78	94.0%
生産環境	3年生(応用植物)	26	26	100.0%
科学課程	3年生(応用動物)	30	29	96.7%
	3年生(環境生態)	36	28	77.8%
	1年生	30	30	100%
獣医学課程	2年生	33	28	84.9%
	3年生	34	33	97.1%
	4年生	32	31	96.9%
獣医学科	5年生	30	26	86.7%
	6年生	31	22	71.0%
合計	710	625	88.0%	

* 対象学生数：在籍学生から休学者等を除いた数

2. 評価科目、評価項目等について

過去の調査と比較するため、評価の対象とした項目は16年度以来全く同じもので①授業の目的、主題が明確で全体が体系付けられていましたか、②理解しやすくするために資料

等に配慮、工夫されていきましたか、③話し方、板書の仕方は適切でしたか、④質問のしやすさ、予習・復習の指導は適切でしたか、⑤教員が熱意を持っていると感じましたか、⑥授業の内容は興味あるものでしたか、の6項目である。それぞれの項目を1(劣)から5(優)まで5段階で評価した。

基礎科目は、夏季休暇中の集中講義12科目を除くセミナー8科目を含め28科目、専門科目144科目の合計172科目を分析対象とした。その内訳は123科目が講義、49科目がセミナー、実習、実験および演習である。講義123科目中5科目は2クラス合併講義でありそれぞれ分けて評価した。受講者の人数が100名を超えるものは僅か3科目(1.8%)で、99~50名が44科目(合併講義3科目を含む)(26.3%)、49名以下が120科目(合併講義2科目を含む)(71.9%)であり1科目あたり受講者の人数はほぼ適正と思われる。以下の基礎科目は3つの教室に分割し、解析学(27~31名)、物理学I(39~60名)、化学I(59~67名)、生物学I(63~68名)、情報処理演習(29~85名)および生物学統計(27~82名)はそれぞれ100名を超える大人数の受講者にならないよう配慮している。

3. 総合点の概要

生物学I(A、B、C)の3教室は同じ教員による講義であり、総合点がそれぞれ3.71、3.68、3.67と昨年と同様(3.67、3.58、3.75)極めて良く似た評価がなされている。従って、この授業評価は信憑性がかなり高いと考えられる。

全授業科目172科目(夏季休暇中の集中講義で未開講の12科目を除く)の総合点(表-2)の平均は3.79であり18年度前学期(3.67)や17年度前学期(3.72)よりやや高い。総合点が4点以上の高い評価を受けた科目は65科目(38%)であり、18年度前学期の29%に比べその割合が9ポイント上昇した。3点未満の低い評価を受けた科目は僅か19科目(11%)であり、18年度前学期の8%に比べやや増加した。なお、88科目(51%)は3点台の評価を受け、18年度前学期に比べ4点台が増加する改善傾向が見られた(表-2、図-

1,2,3)。

実習等は49科目中28科目(57%)が4点台の高い評価を受け、18年度も同様の傾向(56%)が見られた。3点未満の低い評価を受けた19科目中14科目が講義であった。講義と実習等と比較すると実習等の方が高い評価を受けている。

表-2. 講義と実習等の総合評価

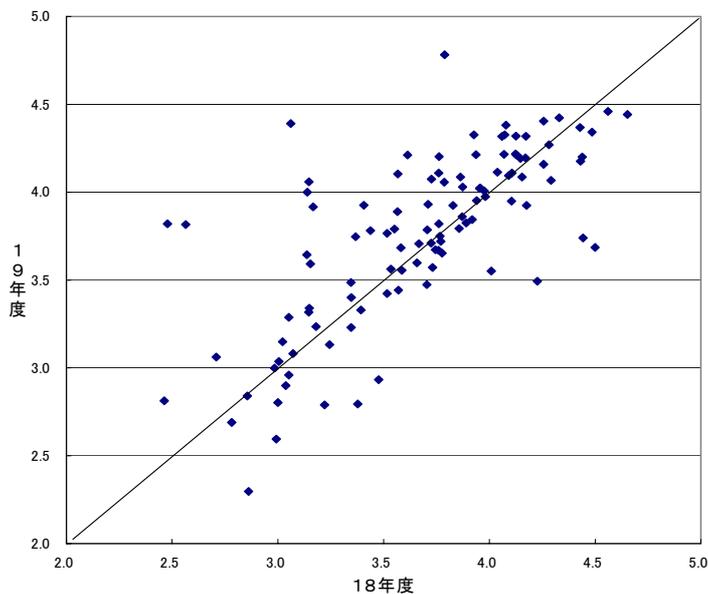
総合点	3.00未満	3.00~3.99	4.00以上	計
講義	14科目(11%)	72科目(59%)	37科目(30%)	123科目
実習等	5(10)	16(33)	28(57)	49
合計	19(11)	88(51)	65(38)	172

*実習等にはセミナー・実験・演習を含む

応用生物学部獣医学課程を除く食品生命科学課程と生産環境科学課程の学生が年次進行で4年次生になり開講科目が増加し大幅に18年度前学期とは異なっているので一概に比べることはできないが、平成18年度と19年度の基礎科目・専門科目の総合点を比較した(図-1)。

110科目中63科目(57%)について総合点が18年度より上昇し改善傾向が見られた。43科目(39%)は4点台の高い評価を受けた(18年度は31科目)。49科目(45%)は18年度、19年度のいずれかの年度に4点以上の高い評価を受け、特に25科目(23%)は2年連続して4点以上の高い評価を安定して受けている。18年度4点以上であったが19年度は4点に満たなかった科目(それでも3.5点以上)は6科目にすぎず、一方、18年度は3点台の評価であったが19年度は4点台の高い評価が得られた科目は17科目である。個々の先生の弛まない改善努力の賜物か。その一方で、僅か4科目ではあるが2年連続で総合点が3点を下回っていた。

図-1 平成18年度19年度前学期総合点の比較



4. 学生からのコメントの概要について

基礎科目 22 科目 (79%) に 78 項目、専門科目 98 科目 (68%) に 307 項目の合計 120 科目に 385 項目とさらに科目名の不記載の 41 項目を加え 426 項目のコメントが寄せられた。17 および 18 年度前学期に比べると、コメント総数は約 50 項目増加した。

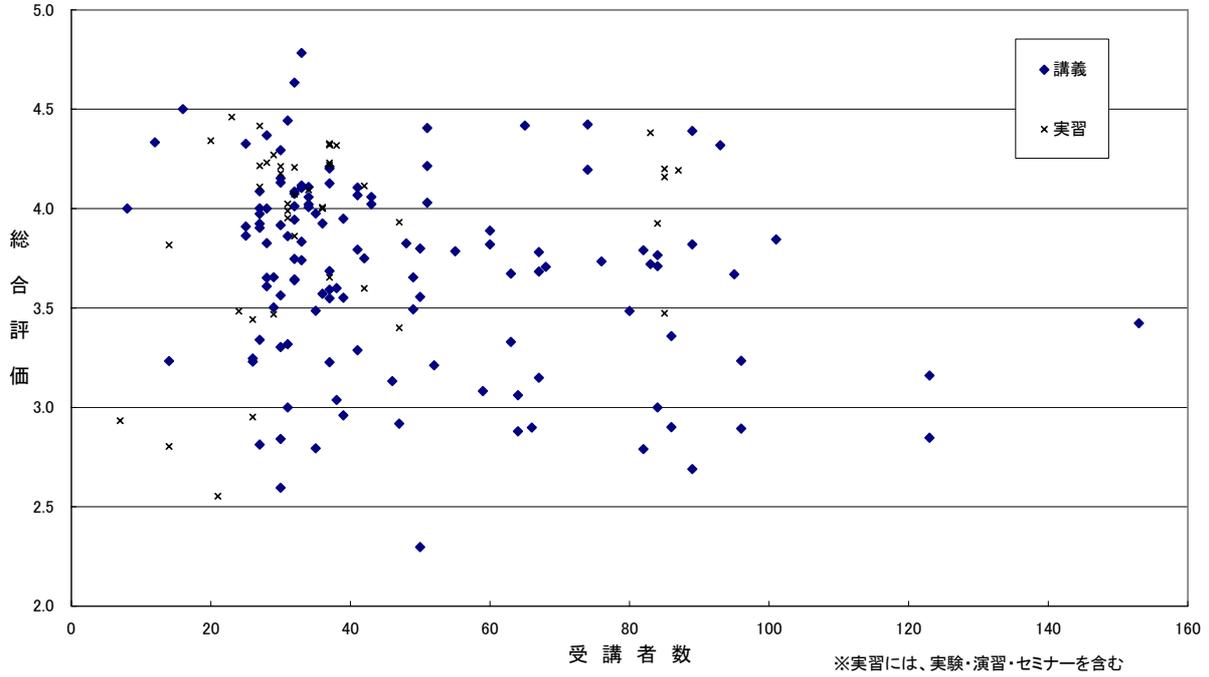
コメントの内容の主なものは授業内容に関するもの 104 件、授業方法やスピードに関するものが 60 件及び授業編成に関するもの 43 件、パワーポイント、OHP やプリントなど資料提示に関するもの 64 件及び板書に関するものが 30 件、声が小さいあるいは早すぎるなど話し方に関するもの 43 件、遅刻、授業延長や補講に関するもの 18 件、評価基準を含めテスト及びレポートに関するもの 31 件、複数教員による連携不足等に関するもの 12 件、教室が広すぎるなど教室環境に関するもの 16 件である。その中身は 18 年度に比べポジティブ (よく理解できた、要望等) なものが増えネガティブ (批判的、否定的等) なものが

減る傾向にある。

4点台の評価を受けた科目への学生からのコメントの実数は比較的少なく、その主なものはポジティブなものであった。特に総合点が4.32以上の評価の高かった講義・実習の上位15科目は獣医生理学Ⅰ（武脇、志水 4.78）、久保田セミナー（4.46）、動物比較発生学（山本 4.44）、河合セミナー（4.42）、生物系統分類学（川窪ら 4.42）、植物生理学（福井 4.42）、食品工学（岩本 4.41）、食品化学Ⅰ（矢部 4.39）、情報処理実習（伊藤健、八代田 4.38）獣医学総合講義（獣医教員 4.37）、小森セミナー（4.34）、園芸栽培汎論（福井 4.33）、獣医化学実習（武脇、志水、椎名 4.33）及び獣医寄生虫学実習（鬼頭、高島 4.32）である。これらの科目には学生からのコメントは全くないか面白かった、楽しかった、資料が良かった、理解しやすかったなどのコメントが寄せられ、満足度の非常に高い講義であったと思われる。複数の学生から板書が汚い、聞きづらいなどのネガティブなコメントが寄せられた講義もあるが、17年度後学期の受講生29名中21名（72%）、42名中15名（36%）や18年度前学期の63名中17名（27.0%）のような1科目に集中してコメントが寄せられる傾向は少なくなった。なお、自由記述欄に、改善要求ではなく17年度や18年度に見られたような、大学生が書いたとは思えない個人を攻撃するような稚拙な表現内容のコメントは減少した。それでも、いわゆる「他人を見下す学生たち」が少数ではあるが混じっていることを肝に銘じて指導していく必要がある。上記のような学生からの評価の高い講義・実習等を教員に公開し、各自の授業改善の参考にするのも1つの方法である。

授業評価そのものに関して、学年進行で授業科目が大幅に変更されているので、一概に前年度とは比較はできないが、授業評価による改善活動は3年目にして歩みが遅くとも、着実に進み改善傾向が現れてきたと言える。

図一2 平成19年度前期受講者数と総合評価



図一3 各課程別受講者数と総合評価(平成19年度前学期)

